

第1回北薩トンネル技術検討委員会 議事要旨

- 1 日時:令和6年9月12日(木) 13:00~16:30
- 2 場所:(会議)北薩地域振興局出水庁舎3階大会議室
(現場)北薩横断道路(国道504号)北薩トンネル(出水市側坑口)
- 3 出席者(敬称略)
 - 委員長:酒匂 一成(鹿児島大学)
 - 委員:砂金 伸治(東京都立大学)(WEB)
 - 大島 洋志(一般社団法人 日本応用地質学会)
 - 日下 敦(国立研究開発法人 土木研究所)
 - 田口 幸洋(福岡大学)
 - 藤田 智弘(国土技術政策総合研究所)
 - 安仲 努(国土交通省九州地方整備局)

4 議事要旨

- ・ 委員会では、北薩トンネルの被災原因及び復旧工法について検討し、技術的提案を行うことを確認した。
- ・ 事務局よりトンネルの被災状況、被災箇所の実況及び今後の調査内容について、説明を行った。
- ・ 現地において、出水市側からトンネル調査を行い、被災箇所の実況を確認するとともに、今後の復旧に向けた調査内容について、意見交換がなされた。
- ・ 被災原因については、7月中旬の豪雨に伴いトンネル周辺の地下水位が上昇し、大きな水圧がトンネルに作用したことが主な要因と考えられるとの意見があった。
- ・ トンネルの変状については、被災直後と比べて、構造の安全性に影響が及ぶような覆工コンクリートのひび割れ拡大やトンネル内空の顕著な変位の増加はみられないことを確認した。
- ・ 今後の調査については、被災原因及び復旧工法の検討のために空洞の位置と規模を把握する調査、トンネル周辺の地山の水位を把握する調査、湧水量を把握するモニタリング等を行い、調査を行う際の安全性を確保するため、トンネルの変位などの状態や状況をモニタリングして、調査の作業を中断する基準値を予め定めるなども検討した方がよいなどの意見があった。
- ・ 今後、安全かつ効率的な復旧を進めていくためには、被災箇所周辺の水を抜く必要があることから、水抜工を先行することが重要であるとの意見があった。